

貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部 | | 負 債 の 部 | |
|----------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| 流 動 資 産 | 21,369,211 | 流 動 負 債 | 1,418,882 |
| 現金及び預金 | 20,103,542 | 買掛金 | 52,084 |
| 有価証券 | 1,000,020 | 未払金 | 312,212 |
| 短期貸付金 | 880 | 未払費用 | 85,738 |
| 商品 | 39,144 | 一年内返済予定の長期借入金 | 600,000 |
| 貯蔵品 | 76,927 | リース債務 | 2,192 |
| 前払費用 | 40,178 | 未払法人税等 | 226,213 |
| その他流動資産 | 108,518 | 未払消費税等 | 30,453 |
| 固 定 資 産 | 27,104,064 | 賞与引当金 | 93,452 |
| 有 形 固 定 資 産 | 25,609,356 | 預り金 | 16,535 |
| 建物 | 12,696,545 | 固 定 負 債 | 503,473 |
| 構築物 | 602,139 | 長期借入金 | 450,000 |
| 機械装置 | 4,260,051 | リース債務 | 2,494 |
| 車輛運搬具 | 42,887 | 長期未払金 | 20,246 |
| 工具器具備品 | 2,490,466 | 役員退職慰勞引当金 | 21,383 |
| 土地 | 5,513,356 | 資産除去債務 | 9,350 |
| リース資産 | 3,909 | 負 債 合 計 | 1,922,356 |
| 無 形 固 定 資 産 | 95,714 | 純 資 産 の 部 | |
| ソフトウェア | 93,604 | 株 主 資 本 | 46,554,313 |
| リース資産 | 430 | 資本金 | 4,050,000 |
| その他無形固定資産 | 1,679 | 資本剰余金 | 3,799,970 |
| 投 資 其 他 の 資 産 | 1,398,993 | 資本準備金 | 3,799,970 |
| 投資有価証券 | 699,589 | 利 益 剰 余 金 | 38,704,342 |
| 関係会社株式 | 6,024 | 利益準備金 | 615,000 |
| 長期貸付金 | 520 | その他利益剰余金 | 38,089,342 |
| 長期前払費用 | 13,669 | 固定資産圧縮積立金 | 100,768 |
| 長期前払消費税 | 84,614 | 設備近代化積立金 | 4,600,000 |
| 前払年金費用 | 284,476 | 退職手当積立金 | 772,000 |
| 繰延税金資産 | 261,253 | 別途積立金 | 16,000,000 |
| 会員権 | 64,800 | 繰越利益剰余金 | 16,616,574 |
| 保証金 | 47,713 | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 | △3,394 |
| その他投資 | 1,130 | その他有価証券評価差額金 | △3,394 |
| 貸倒引当金 | △64,800 | 純 資 産 合 計 | 46,550,918 |
| 資 産 合 計 | 48,473,275 | 負 債 純 資 産 合 計 | 48,473,275 |

損 益 計 算 書

(平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-------------------|--------|-----------|
| 売 上 高 | | 8,735,670 |
| 売 上 原 価 | | 4,984,990 |
| 売 上 総 利 益 | | 3,750,680 |
| 販売費及び一般管理費 | | 1,186,106 |
| 営 業 利 益 | | 2,564,573 |
| 営 業 外 収 益 | | |
| 受 取 利 息 | 97,014 | |
| 受 取 配 当 金 | 19,273 | |
| そ の 他 営 業 外 収 益 | 10,780 | 127,068 |
| 営 業 外 費 用 | | |
| 支 払 利 息 | 2,763 | 2,763 |
| 経 常 利 益 | | 2,688,878 |
| 特 別 損 失 | | |
| 固 定 資 産 除 却 損 | 43,034 | |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 損 | 74,200 | |
| 債 権 譲 渡 損 | 15,000 | |
| 事 業 構 造 改 革 費 用 | 95,326 | |
| そ の 他 特 別 損 失 | 4,800 | 232,361 |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 | | 2,456,517 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 584,000 |
| 法人税等調整額 | | 172,189 |
| 当 期 純 利 益 | | 1,700,327 |

株主資本等変動計算書

(平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | | | 株主資本計 合 |
|-------------------------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|------------|-------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | | | 利益剰余金計 合 | |
| | | 資本準備金 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | | | | | |
| | | | | 固定資産圧縮積立金 | 設備近代化積立金 | 退職手当積立金 | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | | |
| 平成31年4月1日 期首残高 | 4,050,000 | 3,799,970 | 615,000 | 108,303 | 4,600,000 | 772,000 | 29,000,000 | 2,516,211 | 37,611,515 | 45,461,485 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | | |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | △7,535 | | | | 7,535 | — | — |
| 別途積立金の取崩 | | | | | | | △13,000,000 | 13,000,000 | — | — |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | △607,500 | △607,500 | △607,500 |
| 当期純利益 | | | | | | | | 1,700,327 | 1,700,327 | 1,700,327 |
| 株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | | |
| 事業年度中の変動額合計 | — | — | — | △7,535 | — | — | △13,000,000 | 14,100,362 | 1,092,827 | 1,092,827 |
| 令和2年3月31日 期末残高 | 4,050,000 | 3,799,970 | 615,000 | 100,768 | 4,600,000 | 772,000 | 16,000,000 | 16,616,574 | 38,704,342 | 46,554,313 |

| | 評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------------------|------------|
| 平成31年4月1日 期首残高 | 71,055 | 45,532,540 |
| 事業年度中の変動額 | | |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | — |
| 別途積立金の取崩 | | — |
| 剰余金の配当 | | △607,500 |
| 当期純利益 | | 1,700,327 |
| 株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 | △74,450 | △74,450 |
| 事業年度中の変動額合計 | △74,450 | 1,018,377 |
| 令和2年3月31日 期末残高 | △3,394 | 46,550,918 |

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

- | | |
|-------------|---|
| イ 関係会社株式 | 移動平均法による原価法 |
| ロ 満期保有目的の債券 | 償却原価法 |
| ハ その他有価証券 | |
| ・ 時価のあるもの | 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| ・ 時価のないもの | 移動平均法による原価法 |
- ##### ② デリバティブの評価基準及び評価方法
- | | |
|--------|-----|
| デリバティブ | 時価法 |
|--------|-----|
- ##### ③ たな卸資産の評価基準及び評価方法
- | | |
|-------|--|
| ・ 商品 | 最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） |
| ・ 貯蔵品 | 同上（同上） |

(2) 固定資産の減価償却の方法

- | | |
|------------------------|--|
| ① 有形固定資産 （リース資産を除く） | 定額法によっております。 |
| ② 無形固定資産 （リース資産を除く） | 定額法によっております。 なお自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。 |
| ③ リース資産 | リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。 |
| ④ 長期前払費用 | 定額法によっております。 |

(3) 引当金の計上基準

- | | |
|-------------|---|
| ① 貸倒引当金 | 債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 |
| ② 賞与引当金 | 従業員の賞与金の支払に備えるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。 |
| ③ 役員退職慰労引当金 | 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。 |

- ④ 退職給付引当金
(前払年金費用)
- 従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。なお、年金資産が退職給付債務を超過した場合には、その超過額を前払年金費用として投資その他資産に計上しております。

- (4) その他計算書類作成のための基本となる事項
消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

2. 貸借対照表に関する注記

- (1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

| | |
|---------------|-------------|
| ① 担保に供している資産 | |
| 建物及び構築物 | 6,509,359千円 |
| 土地 | 667,921千円 |
| 計 | 7,177,281千円 |
| ② 担保に係る債務 | |
| 一年内返済予定の長期借入金 | 600,000千円 |
| 長期借入金 | 450,000千円 |
| 計 | 1,050,000千円 |

- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 21,383,432千円

- (3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

| | |
|----------|----------|
| ① 短期金銭債権 | 1,324千円 |
| ② 短期金銭債務 | 22,969千円 |

3. 損益計算書に関する注記

- (1) 関係会社との取引高

| | |
|-------------------|----------|
| ① 営業取引による取引高 | 18,019千円 |
| ② 営業取引以外の取引による取引高 | 96,563千円 |

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首の株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末の株式数 |
|-------|-------------|------------|-------------|------------|
| 普通株式 | 20,250,000株 | 一株 | 20,249,984株 | 16株 |

(注) 当社は、令和2年3月31日付で普通株式1,233,464株につき1株の割合で株式併合を行ったため、発行済株式の総数が20,249,984株減少しております。

(2) 剰余金の配当に関する事項

配当金支払額等

令和元年6月24日開催の第153回定時株主総会決議による配当に関する事項

| | |
|-----------|------------|
| ・配当金の総額 | 607,500千円 |
| ・配当の原資 | 利益剰余金 |
| ・1株当たり配当額 | 30円 |
| ・基準日 | 平成31年3月31日 |
| ・効力発生日 | 令和元年6月25日 |

5. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内容

(繰延税金資産)

| | |
|--------------|-------------|
| 賞与引当金 | 28,615 (千円) |
| 未払事業税否認 | 23,998 |
| 役員退職慰労引当金否認 | 6,547 |
| 減損損失否認 | 257,619 |
| 土地取得に係る立退費用 | 44,401 |
| 貸倒引当金否認 | 19,841 |
| 会員権評価損否認 | 7,757 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,498 |
| その他 | 14,831 |
| 繰延税金資産合計 | 405,110 |

(繰延税金負債)

| | |
|-----------|----------|
| 固定資産圧縮積立金 | △56,749 |
| 前払年金費用 | △87,106 |
| 繰延税金負債合計 | △143,856 |
| 繰延税金資産の純額 | 261,253 |

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については、銀行借入による方針です。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

② 金融商品の内容及びそのリスク

有価証券及び投資有価証券は、主にその他有価証券の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスク等に晒されております。

長期借入金の使途は主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。当事業年度末の長期借入金は固定金利による借入のみであります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

その他有価証券として保有している債券は、資金管理規程に基づき運用しており、信用リスクは僅少であります。

ロ 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的の時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

ハ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

令和2年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2．参照）。

| | 貸借対照表計上額 (千円) | 時 価 (千円) | 差 額 (千円) |
|------------------|------------------|-------------|-------------|
| (1) 現金及び預金 | 20,103,542 | 20,103,542 | － |
| (2) 有価証券及び投資有価証券 | 1,695,986 | 1,695,986 | － |
| (3) 長期貸付金 | 1,400 | 1,399 | △0 |
| 資 産 計 | 21,800,929 | 21,800,928 | △0 |
| (1) 長期借入金 | 1,050,000 | 1,051,026 | 1,026 |
| 負 債 計 | 1,050,000 | 1,051,026 | 1,026 |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価額によっております。

(3) 長期貸付金

当社では、長期貸付金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しております。なお、一年内回収予定の長期貸付金を含めております。

負 債

(1) 長期借入金

長期借入金は、固定金利による借入のみであるため、元利金の合計額を同様に新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、一年内返済予定の長期借入金を含めております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区 分 | 貸借対照表計上額（千円） |
|--------|--------------|
| 非上場株式 | 3,622 |
| 関係会社株式 | 6,024 |

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(2)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。また、関係会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表に含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|--|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 20,103,542 | — | — | — |
| 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの その他 | 1,000,020 | — | — | 622,850 |
| 長期貸付金 | 880 | 520 | — | — |
| 合 計 | 21,104,442 | 520 | — | 622,850 |

4. 長期借入金の返済予定額

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 長期借入金 | 600,000 | 450,000 | — | — |

7. 関連当事者との取引に関する注記

| 属 性 | 会 社 名 称 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事 業 の 容 容 内 又は職業 | 議 決 権 等 の 所 有 (被 所 有) 割 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科 目 | 期 末 残 高 (千円) |
|-----|-----------|-------------------|---------------------|----------------------------------|----------------|----------------|-------|--------------|-------|-----------------|
| | | | | | 役 員 の 兼 任 等 | 事 業 上 の 関 係 | | | | |
| 親会社 | 株式会社 藤廣濟堂 | 1,000 | 印刷業 | (被所有) 直接100% | 有 | 有 | 受取利息 | 96,563 | 長期貸付金 | — |

(注) 資金の貸付については市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

| | |
|----------------|-------------------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 2,909,432,408円50銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 106,270,482円62銭 |

(注) 1株当たりの純資産額及び1株当たりの当期純利益は、当事業年度に行いました株式併合が当事業年度の期首に行われたと仮定してそれぞれ算定しております。

9. その他の注記

(追加情報)

(重要な自己株式の取得)

当社は、令和2年3月7日開催の臨時株主総会において、定款の一部変更及び株式併合について決議し、承認可決されました。

当社は、令和2年3月31日をもって、令和2年3月30日の最終の株主名簿に記載された株主が保有する当社株式1,233,464株につき1株の割合で株式併合を行いました。

これにより、株式会社廣濟堂以外の株主の皆様のご所有株式数は、1株に満たない端数となりました。

このため、当該端数の合計数に相当する数の株式（その合計数に1株に満たない端数がある場合にあっては、当該端数は切り捨てられます。）については、裁判所の手続を経たうえで、株式併合前のご所有株式数に1株当たり1,600円を乗じた金額に相当する金銭を端数が生じた株主の皆様に対して交付できるように当社が買い取り、その結果、株主の皆様に対して、株式併合前のご所有株式数に1株当たり1,600円を乗じた金額が交付される予定です。なお、交付される金額の総額は約126億円の予定です